

# 北陸本線と湖北地域のあゆみ

毎月15日号では、市内各地域をリレーで特集し、それぞれの魅力の紹介を行っています。合併により広くなった市域には、皆さんがまだ知らない長浜の魅力がたくさんあります。

JR北陸本線は平成18年、長浜〜敦賀間の直流化工事完了により、新快速電車の敦賀駅への乗り入れが開始され、利便性が大幅に向上しました。

この北陸本線の敷設が決定したのは明治2年、東西両京を結ぶ鉄道敷設が決まったのと同じ年のことでした。

明治13年に着工した鉄道敷設工事の最大の難関は余呉の柳ヶ瀬から敦賀に抜けるトンネルの掘削でした。



柳ヶ瀬トンネルを出る機関車



旧中之郷駅

列車の運行が開始され、時代が進むと輸送量も交通量も増えていきました。特に「中之郷駅」は、京阪神はもちろん中京方面への旅客や貨物の輸送経路として重要な役割を果たすこととなりました。当時は構内で

の立ち売りなどが行われ、季節によっては鮎釣や赤子山スキー場に向かう観光客でいっぱいになることもありました。

湖北地域の交通の要として活躍した北陸本線は、利用が増えるにつれて輸送力の強化が必要になり、急勾配の路線やスイッチバック方式の運行を改める必要が出てきました。さまざまな調査や議論の末に採用されたのが木ノ本駅から余呉湖畔に入り近江塩津駅に乗り入れる現在の路線で、昭和32年に新北陸本線として開通、交流電気機関車が運行

しました。一方、『柳ヶ瀬線』としてディーゼルカーでの運行が続けられた旧北陸本線は、利用客が少ないことから地元の存続陳情も空しく、昭和39年に廃止されました。多大な労苦を重ねた末に

完成した柳ヶ瀬トンネルは、『柳ヶ瀬線』の廃線によりレールは撤去されたものの、現在も自動車で敦賀市へ抜けるトンネルとして使用されています。また、『柳ヶ瀬線』と同じルートをバスが運行しており、地元の人たちの大切な移動手段となっています。

今回は北陸本線にスポットを当て、余呉地域を紹介しましたが、ほかにも余呉湖や菅山寺、ウデツイパルなど、豊かな自然に溶け込む魅力があります。春の行楽に訪れてみてはいかがでしょうか？次号では湖北地域の情報をお届けします。



長浜鉄道スクエアにある石額

近年では、交通手段の多様化により鉄道離れが進みつつありますが、鉄道ならではの利便さや楽しさは尽きることがありません。また、車に乗らない人にとって、鉄道は欠くことのできない交通手段です。柳ヶ瀬トンネルの入り口には伊藤博文の筆による「萬世永頼」という石額が設置されています。その言葉には、「この鉄道が世のために働いてくれることを、いつまでも長く頼りにしている。」という意味が込められています。

こうした先人の思いを引き継ぎ、北陸本線を後世にまで存続していきたいですね。そのためにも、旅行や出張へは電車で行くなど、鉄道利用を増やすことを心がけましょう。

※現在トンネル入り口に設置されているのはレプリカで当時の石額は長浜鉄道スクエアで保存されています。

## 子ども達の学びの環境づくりのために

長浜市内の県立学校のあり方や教育・人材育成について話し合い、県教育委員会へ提言していくことをめざす「長浜の未来を拓く教育検討委員会」。2月24日に開催しました第3回会議の結果をお知らせします。

### ○『長浜教育みらいフォーラム』の開催が決定しました

【と き】3月18日(日)13時30分～(13時開場)

【と ころ】長浜文化芸術会館(大島町)

【内 容】☆基調講演 『つなげよう！学校と地域社会』

講師：藤原和博氏(東京学芸大学客員教授/杉並区立和田中学校・前校長)

☆パネルディスカッション 『魅力と活力ある高等学校とは』

コーディネーター：大橋松行氏(滋賀県立大学教授)

パネリスト：荒瀬克己氏(京都市立堀川高校長)、関目六左衛門(京都市立西京高校・附属中学校長)、田宏司氏(三重県立伊賀白鳳高校長)

### ○4つの教育関係団体から意見を聴きました

今後における検討の参考とするため、「市PTA連絡協議会」、「市学校運営協議会」、「市小中学校長会」と「湖北の高校を守る会」の4つの教育関係団体の代表者から、各団体の考え方やこれまでの取組みについて報告を受けました。

### ○アンケート調査の速報集計結果について報告しました

市内の中学生や高校生、およびその保護者を対象として、2月1日～17日の間に実施したアンケート調査について、その速報集計の結果を報告しました。

※より詳しい調査結果については、次回の会議で報告する予定です。

当日の委員会資料や議事録は、市ホームページに掲載していますのでご覧ください。

また、高校再編や人材育成などに関するご意見は、メールまたは書面にてお寄せください。いただいたご意見は、検討委員会に報告します。



企画広報課(☎65-6505、Eメールkikaku@city.nagahama.lg.jp)

## 座ぶとん会議

26

市では、風通しのよい開かれた市政を実現するために、市内の自治会をはじめ、自主的な地域活動を行っているグループ等を対象に、市長が市民の皆さんの声を聴く「座ぶとん会議」を開催しています。

### 住み良いまちをめざって

およそ180世帯が暮らす地域をまとめる大浦自治会の皆さん。規模が大きくなればなるほど、地域での活動は難しくなりますが、大浦自治会では桜の保全や花火大会などを通じて地域の付き合いを深めていらつしやいます。

懇談の中ではまず、合併前後の除雪対策についてのお話をいただきました。除雪路線は、合併前後で変わりはありませんが、除雪方法は塩津地区が市直管、永原地区のほとんどが業者委託となりました。除雪作業を円滑に進めるため、地元をよく知る職員が作業にあたるようにし、委託部分はきちんと業者お願いしていきます。

次にお話しいただいたのは、原発の安全対策についてです。本市は敦賀原発を有する敦賀市と隣接しており、万一が事故が起きた時のことが不安なので、その時の対策などを教えて欲しい。という声が上がりました。

市では、防災危機管理課を昨年4月に設置し、その中に原子力安全対策室を設けました。現在、国に先立ち、県と連携を取りながら市独自の原子力の災害対策を盛り込んだ計画の策定に取り組んでいます。また、放射線量を定期的に測定し、万が一に備えて安定ヨウ素剤を備蓄してい

ます。4月には、長浜・高島・米原・彦根の4市長で原子力発電所を管理する3事業者に対し、安全対策に関する申入れを行いました。原発の安全問題は、長浜市にとって最大の課題です。これからもしっかりと対応していきます。

その他、獣害に困っているお話がありました。獣害対策で大切なのは獣が来ない環境づくりです。例えば、耕作放棄地などの草刈りをして獣が隠れられるスペースをなくす、また、柵を設けるなどが有効です。市は皆さんと連携しながら根気強く取り組む必要があると考えています。

今回の座ぶとん会議では、生活に密着した話題を取り上げてくださり、「大浦地区を住みやすい地域にしよう」という皆さんの熱い思いが伝わってきました。決して行政は万能ではありませんが、情報提供、人的な支援、事業によっては財政的な支援など行政が担わなければならないことはいくらと取り組んでいきたいと思

